

# ぼやあ樹だより

今月も、空き情報やキャンペーンなどを掲載した広報誌「ぼやあ樹だより」をお届けいたします。  
また、弊社ホームページでは各事業所のニュースなども掲載しておりますので、ぜひ一読いただけますと幸いです。

## 空き情報

### 小規模多機能型居宅介護ぼやあ樹 空き情報(2026年7月1日現在)

ぼやあ樹の6事業所(新子安・神大寺・平川町・松本町・江ヶ崎町・関内)の空き情報をお知らせ致します。  
ご利用をご検討の際に、参考にしていただければと思います。

| 地域   | 事業所名      | 泊まり | 通い | 訪問 |
|------|-----------|-----|----|----|
| 神奈川県 | ぼやあ樹 新子安  | ◎   | ◎  | ◎  |
|      | ぼやあ樹 神大寺  | ◎   | △  | ◎  |
|      | ぼやあ樹 平川町  | ◎   | ◎  | ◎  |
|      | ぼやあ樹 松本町  | △   | ◎  | ◎  |
| 鶴見区  | ぼやあ樹 江ヶ崎町 | ◎   | △  | ◎  |
| 中区   | ぼやあ樹 関内   | △   | ◎  | ◎  |

- ◎ 空きあり
- △ 曜日等 要相談
- × 満員(空き待ち)

当社ホームページや SNS でもも随時更新しています。QRコードよりぜひご覧ください。



## ぼやあ樹からのお知らせ

当社独自の**要介護4・5および週4日以上泊まりの方を限定**とした  
**【お泊り料金割引キャンペーン】**

を実施します！！

2026年4月～9月にご利用開始となった方に限り、  
**宿泊費を特別割引価格**でご案内いたします。

《ご利用条件》 ※①②いずれも該当

- ①要介護4または5の方
- ②週4日以上泊まり利用の方

介護サービスに困っている方や  
当キャンペーンにつきましてご不明な点等が  
ございましたら、遠慮なく相談窓口まで  
お問い合わせください。



同封の資料をぜひご覧ください！

**相談窓口☎:045-620-5540**

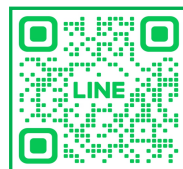


**LINE**

**公式アカウント**

**友だち登録募集中**

LINEアプリの「友だち追加」  
→「QRコード」から  
下記のQRコードを撮影して、  
ご登録をお願いします☆



# 「希望をカタチに」 — Vol.5 —

代表取締役 石川 洋一



本コラムでは、「希望をカタチに」という理念が、  
どのような出会いや想いから生まれてきたのかをお伝えしていきます。

看取りの現場では、  
人生のさまざまな時間に立ち会います。  
長い人生を歩んできた方もいれば、  
まだこれから多くの時間を生きていくはずだった人も  
います。

あるとき出会ったのは、中学生の男の子でした。  
進行性のがんで、ホスピスでの療養を選択して  
いました。  
ご両親は離婚されており、  
彼は小さい頃からおばあちゃんに育てられて  
いました。  
学校にも通い、友達もいて、  
普通の中学生としての日常を過ごしていました。  
けれど病気は、  
その時間を大きく変えてしまいました。  
治療を続ける中で、次第に体力は落ち、  
入院生活が長くなっていきました。  
やがてホスピスで過ごすことになりました。

彼の心の中には、  
たくさんの思いがあったのだと思います。  
どうして自分なのか。  
どうしてこんな人生なのか。  
両親と一緒に暮らしていない。  
家庭の事情も抱えていた。  
そのうえで、まだ中学生の自分が  
命の終わりに向き合わなければならない。  
理不尽だと感じる気持ちは、  
とても自然なことだったと思います。  
ホスピスの中でも、  
情緒が不安定になる日がありました。  
看護師に強い言葉をぶつけることもありました。  
「放っておいてよ」  
「どうせ分からないだろ」  
そんな言葉が出る日もありました。  
周りの大人にとっても、  
決して簡単な時間ではありませんでした。  
けれど、その言葉の奥にある気持ちを思うと、  
怒りの奥には、どうにもならない悲しさや孤独が  
あったのだと思います。  
まだ子どもなのに、  
受け止めるにはあまりにも大きな現実でした。

それでも、そんな彼に変化が見えた瞬間が  
ありました。

ホスピスで行われた、小さなイベントの日でした。  
特別なことではありません。  
少し部屋を飾って、みんなでお菓子を食べて、  
音楽を流して、ほんのささやかな時間でした。  
そのとき彼は、ふっと笑ったのです。  
それまで見せていた表情とは違う、年相応の、  
中学生らしい笑顔でした。  
その笑顔が、今でも忘れられません。  
普段の葛藤を知っているからこそ、  
その一瞬の笑顔がとても眩しく感じました。  
怒りも、悲しみも、理不尽への思いも、  
すべてが彼の中にあっただと思います。  
それでも、  
**その小さな時間の中で確かに「笑う瞬間」が  
ありました。**

私たちは、その姿を見ながら  
胸が締めつけられる思いもありました。  
どうしてこの子が、  
こんな現実に向き合わなければならないのか。  
そんな思いが浮かぶこともありました。  
けれど同時に、彼が抱えていた苦しみ的一端に  
触れたような気もしました。  
怒ることも、憎むことも、投げ出したくなることも。  
それはきっと、必死に生きている証だったのだと  
思います。  
看取りの現場では、穏やかな時間ばかりでは  
ありません。  
怒りや、悲しみや、言葉にならない感情が溢れること  
もあります。  
それでも、その中にふと現れる  
一瞬の笑顔や穏やかな時間があります。  
その瞬間が、とても大切なもの感じられるのです。  
ぼやあ樹が掲げている  
「希望をカタチに」という言葉。  
それは、明るい未来だけを意味するものではありません。  
苦しさや葛藤の中にも、その人らしい時間がある。  
その時間を、大切に守り続けること。  
そして、ほんの一瞬でも  
笑顔が生まれる時間をつくること。  
**その小さな瞬間の積み重ねも、確かな「希望」なのだ  
と私たちは感じています。**  
これからも、その人の人生と心に寄り添いながら、  
どんな時間の中にもある小さな希望を、  
静かに「カタチ」にしていきたいと思っています。